

2026年4月20日
株式会社LIXIL
CFO 藤田 真理子

新戦略策定のための資産運用立国推進分科会に、事業会社の立場で参加させていただくという貴重な機会をいただいたことを感謝いたします。

事業会社の視点では、新しい制度や施策導入の際には、常に「実務上の展開」という論点が発生します。これは自社だけでなく、その先にある取引先や顧客を含めたエコシステム全体に及びます。クリーンな設計は理想ですが、多くの場合、既存システムとの共存による複雑化とコスト増が不可避となります。そのため、設計段階からの官民のすり合わせが不可欠です。

一方で、検討の長期化は競争優位性の喪失を招きます。スピード感を維持するためには「割り切り」も必要であり、そのさじ加減において、詳細議論に埋没せず、大枠となる「プリンシプルの設定」を主導いただいたことに深く敬意を表します。

今後は、コーポレートガバナンスの領域においても、個別のルール遵守に終始するのではなく、その「目的と存在意義」を最大限に引き出す改定を期待しております。高まる経済安全保障リスクの中で、日本企業が海外との熾烈な競争に打ち勝ち、持続的に価値を創造するためには、有事にも耐えうる強靱な経営基盤と、迅速な意思決定が不可欠です。

企業が適正に運用され、その価値がマーケットに十分理解されるという本質的な趣旨の実現と、その実現コストの低減。この「価値とコスト」の両輪を高い次元で回していくことこそが、日本企業の国際競争力を再構築する鍵であると確信しております。

最後に、本分科会での議論は一つの到達点ですが、同時に始まりでもあると考えております。今回の提言が、今後各省庁で具体的な施策として実装される段階においても、実務現場の知見を必要とされる局面があれば、微力ながら協力させていただく所存です。

改めて、本委員会の運営に携わった全ての皆様に深く御礼申し上げます。